

＝ ＝ ＝ ＝ 1945±66 沖縄戦は終わったのか？ ＝ ＝ ＝ ＝

6月23日 沖縄では慰霊の日である。  
牛島中将、長参謀長が自決したとされる日、  
その日以降も戦闘は続き、そのため多くの沖縄人が犠牲となった。

その原因は沖縄戦の目的を日本本土防衛の防波堤と持久戦としたことによるが、  
もうひとつの大きな問題は明治以降、日本の都合により境界をさまよわされた沖縄を  
はっきりと日本の外に放り出したことにある。

そのことで日本軍による住民殺害と暴力行為が多発した。

(投降する住民を殺害、スパイ容疑で殺害、強姦、食料強奪、壕追い出し、入壕拒否、集団自決の強要)

沖縄人にとって沖縄戦とは何だったのか？

日本ではなかった沖縄が日本になった琉球処分(1879年)から  
日本人になれたと思っていた沖縄人は日本人ではなかったという結末を  
つきつけられたことになる。

ひとりの沖縄人は琉球処分を体験し66年後沖縄戦を体験した。  
そのことのもつ意味はあまりにも残酷だといえる。

あのときから66年が過ぎ、平和な時代に生きていると思っている。

しかし数年前、集団自決を経験し生き残った大正区に住むおばあさんの話を聞いた時、  
そのおばあさんにとって戦争は続いていた。

その時から戦争と平和の境い目がはっきりしなくなり、くっついている様に見えるはじめた。

いま、あのおばあさんの戦争を終わらせるには、どうしたらいいのか  
6月22日を考える日にし、そして6月23日を迎えたい。

□■□ 金城 馨

講師プロフィール — 森口 豁(もりぐち・かつ)

1937年、東京生まれ。

1958年、玉川大学文学部中退。琉球新報社入社、東京支社報道部記者に。

1959年、琉球新報社社会部記者として米軍政下の沖縄に移住。

(61年より日本テレビ沖縄通信員を兼務)

1963年、琉球新報社退職。日本テレビ「沖縄特派員」に。

1974年、日本テレビ本社に転勤、報道部記者を経て、77年より報道番組ディレクターに。

1987年、ドキュメンタリー番組『ひめゆり戦史・いま問う国家と教育』

『島分け・沖縄鳩間島哀史』など一連の沖縄作品でテレビ大賞優秀個人賞、  
JCJ(日本ジャーナリスト会議)奨励賞を受賞。

1990年、日本テレビ退職、フリージャーナリストに。「沖縄を語る一人の会」主宰。

2005年、著書『だれも沖縄を知らない——27の島の物語』で

第26回沖縄タイムス出版文化賞受賞。

- 主な著書 -

『反骨のジャーナリスト——沖縄言論人 池宮城秀意の反骨』(1995年、講談社)

『代理署名裁判——沖縄県知事証言』(共著、1996年、ニライ社)

『「安保」が人をひき殺す——日米地位協定＝沖縄からの告発』(1996年、高文研)

『沖縄 近い昔の旅——非武の島の記憶』(1999年、凱風社)

『沖縄 元気力』(共著、2001年、東京書籍)

『だれも沖縄を知らない——27の島の物語』(2005年、筑摩書房)

『米軍政下の沖縄——アメリカ世の記憶』(2010年、高文研)

■ 関西沖縄文庫 ■

「関西から沖縄が見える、沖縄の文化、芸能の発信基地」

住所 〒551-0011 大阪市大正区小林東3丁目13-20

Tel/Fax (06) 6552-6709

HP <http://okinawabunko.com/>